

「新あいち多文化共生推進プラン(仮称)」の作成にあたって

- 第3次プランであることを踏まえ、「経緯」を3つに分けた。【本文4、5ページ】
- 幅広い意見を伺うために、タウンミーティングや高校生との多文化共生セッションを開催するなど、策定過程をプロジェクト化した。【7、67、68ページ】
- 多文化共生推進の必要性や意義、基本目標や施策目標は、短期間では変わらないため、現行プランどおりとした。【8～11ページ】
- 多国籍化等を踏まえ、「プランの対象者」を追加。【11ページ】
- プランの方向性を「ライフサイクルに応じた継続的な支援」「相互関係に着目した共生デザインの視点」「外国人を受け入れている地域などへの支援と意識づくり」の3つにまとめた。【12ページ】
- 検討会議の意見等を「推進施策のポイント」としてまとめ、各推進施策に反映させた。【13～15ページ】
- ライフサイクル図を作成することにより、これまで扱っていなかった分野も網羅した（特に、子育て分野、高齢者分野）。【18～19ページ】
- 各段階での推進施策を記述。【20～36ページ】
- 「体制」の記述を厚くした。【40、41ページ】
- 外国人県民の役割を明記し、それに対する支援を記載。【42～45ページ】
- 外国人県民に対する支援だけでなく、受け入れている側に対する支援も記載。【46～48】
- 「意識づくり」には、名城高校の生徒の意見も盛り込む予定【49、50ページ】
- 外国人の人権については、意識づくりだけでなく、国と連携して人権が守られる仕組づくりについて明記。【50ページ】
- 全体の施策がわかるよう、施策体系図も作成。【52ページ】
- 「主な施策と目標」は、できるだけ数値目標を記載。【53ページ】
- 他団体との連携を明確にするため、可能な限り具体的な団体名を明記。【14、21、33、39、44、49ページ】